

こんしゅう　　ところ　　め  
今週のことば「心の目」

せいし　　ふくいんし  
《聖書》ヨハネによる福音書 9:1-41

め　　み　　ひと  
目の見えない人

め　　み　　ひと　　め　　ひら  
イエスは、目の見えない人の目を開か  
じ　　だい　　ひと　　びと　　め　　み  
れます。イエスの時代の人々は、目が見  
ひと　　つみ　　おか  
えないのは、その人が罪を犯したからだ  
か　　ん　　が　　め　　み  
と考えていましたので、ただ目が見えな  
つ　　み　　びと  
いというだけでなく、罪人としてあつか  
わ　　れ　　て　　い　　ま　　し　　た　　。

め　　み　　ひと　　め  
そこで、イエスが目の見えない人の目  
ひ　　ら　　と　　き　　つ　　ち　　い　　け　　あ　　ら  
を開く時、土をぬって、池で洗うように  
い　　み　　ず　　あ　　ら　　こ　　う　　ど　　う  
と言いました。水で洗うという行動によ  
め　　ひ　　ら  
って、ただ、目が開かれるだけでなく、  
ひと　　き　　よ　　こ　　と　　ひと　　し　　め  
その人が清められた事を、人に示された  
おも  
のだと思います。

め　　ひ　　ら　　こ　　と　　た　　ん  
「目を開く」という事は、ただ単に、  
め　　み  
目が見えるようになるというだけでなく、  
こ　　ろ　　め　　ひ　　ら　　こ　　と　　め  
心の目も開かれるという事なのです。目  
ひ　　ら　　ひと　　よ　　げ　　ん　　し　　や  
を開いてもらった人が、イエスを預言者  
し　　ん　　た　　い　　は  
として信じたのに対して、ファリサイ派  
ひと　　び　　と　　こ　　う　　い　　し　　ん  
の人々は、イエスの事を受け入れず、真

じ　　つ　　み  
実を見ようとしませんでした。

こ　　ろ　　み  
心によって見る

め　　み　　か　　な　　ら  
目で見ているからといって、必ずしも  
し　　ん　　じ　　つ　　こ　　と　　み　　か　　ぎ  
真実の事を見ているとは限らないのです。  
め　　み　　こ　　と  
むしろ、目で見える事にとらわれすぎて  
あ　　や  
しまって、誤ってしまうことがあるので  
す。

で　　き　　こ　　と　　た　　い　　は　　ん　　だ　　ん　　く　　だ  
いろんな出来事に対して、判断を下す  
と　　き　　こ　　ろ　　み　　こ　　と  
時に、いつも心によって見る事がとても  
た　　い　　せ　　つ　　け　　っ　　か  
大切なのです。結果だけにとらわれてい  
だ　　い　　じ　　こ　　と　　み　　の　　が　　ば　　あ　　い  
ると、大事な事を見逃してしまう場合が  
あ　　り　　ま　　す　　。

い　　ま　　し　　や　　か　　い　　ひ　　や　　う　　か　　り　　え　　ぎ  
今の社会での評価は、利益があるかど  
て　　ん　　ち　　ゆう　　も　　く　　し　　や　　か　　い  
うかという点に注目されています。社会  
な　　か　　り　　え　　ぎ　　う　　だ  
の中にあって、利益を生み出さないもの  
は　　い　　せ　　き  
は、じゃまものあつかいされ、排斥され  
て　　い　　ま　　す　　。　　こ　　れ　　で　　い　　い　　わ　　け　　が　　あ　　り　　ま　　せ　　ん　　。  
し　　や　　か　　い　　は　　ん　　だ　　ん　　こ　　ろ  
こうした社会の判断にまどわされず、心  
み　　こ　　と　　お　　な　　は　　ん  
によって見る事により、イエスと同じ判  
だ　　ん  
断がきるようになっていくのです。

し　　じ　　ゆ　　ん　　せ　　つ　　だ　　い　　し　　じ　　つ　　ね　　ん　　た　　き　　の  
四旬節第4主日A年（滝野）